

福島12市町村の教育・人材育成 ～現状と今後の取組について～

福島県教育委員会教育長 杉 昭重

12市町村の小・中学校の状況①（仮設校舎や他施設利用の状況）

【飯舘村：草野・飯樋・白石小学校 3校の仮校舎と体育館】



震災前	現在
南相馬市小高区	南相馬市鹿島区
飯舘村	福島市（中）、川俣町（小）
浪江町	二本松市
葛尾村	三春町
双葉町	いわき市
大熊町	会津若松市
富岡町	三春町
川内村	<帰還>
楡葉町	いわき市
広野町	<帰還>
田村市都路地区	<帰還>
川俣町山木屋地区	川俣町



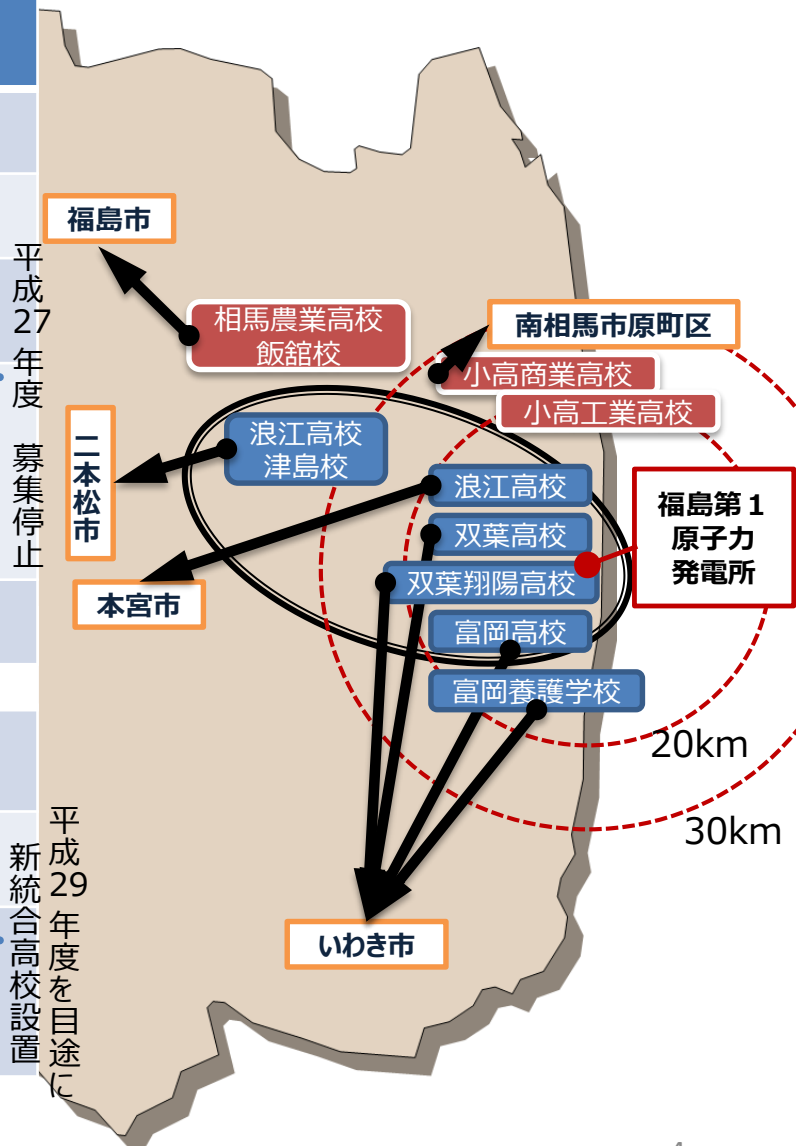
12市町村の小・中学校の状況②（児童生徒数の推移）

		平成22年5月 【震災前】	平成23年5月 【震災直後】		平成26年5月 【現在】	
南相馬市小高区		1,087	103	(9%)	258	(24%)
飯舘村		531	388	(63%)	289	(54%)
双葉8町村	浪江町	1,773	0	(0)	47	(3%)
	葛尾村	112	0	(0)	20	(18%)
	双葉町	551	0	(0)	11	(2%)
	大熊町	1,127	568	(50%)	196	(17%)
	富岡町	1,487	0	(0)	49	(3%)
	川内村（帰還）	166	76	(46%)	43	(26%)
	楢葉町	686	0	(0)	160	(23%)
	広野町（帰還）	541	0	(0)	141	(26%)
双葉8町村計		6,443	644	(10%)	667	(10%)
田村市都路地区（帰還）		228	197	(86%)	152	(67%)
川俣町山木屋地区		99	89	(90%)	71	(72%)
総 計		8,388	1,421	(17%)	1,437	(17%)

県立学校の状況①（校舎の状況）

◎高校（サテライト校）

No.	校名 (福島県立)	震災による移転先
1	双葉高校	いわき明星大学サテライト(いわき市)
2	浪江高校	本宮高校サテライト(本宮市)
3	浪江高校 津島校	安達高校サテライト(二本松市)
4	富岡高校	いわき明星大学サテライト(いわき市) 福島北高校サテライト(福島市) 猪苗代高校サテライト(耶麻郡猪苗代町) 三島長陵高校サテライト(静岡県)
5	双葉翔陽高校	いわき明星大学サテライト(いわき市)
6	相馬農業高校 飯舘校	福島明成高校サテライト(いわき市)
7	小高商業高校	原町高校サテライト(南相馬市原町区)
8	小高工業高校	南相馬市サッカー場サテライト (南相馬市原町区)



◎特別支援学校

…富岡養護学校 聾学校平分校（いわき市）敷地内仮設校舎へ移転

県立学校の状況②（生徒数の推移、今後の見通し）

・ 震災前後の生徒数の推移（高校）

	平成22年5月 【震災前】	平成23年5月 【震災直後】	平成26年5月 【現在】
双葉高校	4 6 9	2 0 5 (4 4 %)	4 5 (1 0 %)
浪江高校	3 1 2	1 3 9 (4 5 %)	3 3 (1 1 %)
浪江高校津島校	5 3	5 1 (9 6 %)	3 8 (7 2 %)
富岡高校	3 6 2	2 2 2 (6 1 %)	1 7 2 (4 8 %)
双葉翔陽高校	3 4 0	1 7 0 (5 0 %)	4 9 (1 4 %)
相馬農業高校飯館校	8 8	7 4 (8 4 %)	5 4 (6 1 %)
小高商業高校	2 1 7	1 5 2 (7 0 %)	1 4 1 (6 5 %)
小高工業高校	5 8 8	3 9 3 (6 7 %)	3 0 5 (5 2 %)
計	2,4 2 9	1,4 0 6 (5 8 %)	8 3 7 (3 4 %)

・ 今後の見通し

…平成27年度より募集停止（平成29年度からは休校となる予定）

（双葉高校、浪江高校、浪江高校津島校、富岡高校、双葉翔陽高校）

…平成29年4月を目途に、小高商業高校と小高工業高校は統合予定

…富岡養護学校は、富岡町の復興状況等を勘案しながら、帰還を検討する。



福島県双葉郡教育復興ビジョンのイメージ図

- 双葉郡の復興や持続可能な地域づくりに貢献し、全国や世界で活躍できる人材を育成
- 子供たちの実践的な学びで地域を活性化し、復興につなげる

双葉郡教育復興の基本的方針

- ① 震災・原発事故からの教訓を生かした、双葉郡ならではの魅力的な教育を推進
- ② 双葉郡の復興や、持続可能な地域づくりに貢献できる「強さ」を持った人材を育成
- ③ 全国に避難している子供たちも双葉郡の子であるという考えのもと、教育を中心として双葉郡の絆を強化
- ④ 子供たちの実践的な学びが地域の活性化にもつながる、教育と地域復興の相乗効果の創出
- ⑤ 双葉郡から新しい教育を創り出し、県内・全国へ波及

各学校段階を通じて一貫した価値観の教育目標とカリキュラムによる教育

長期的に双葉郡の復興を担うことに加えて、全国や世界に貢献できる人材を育成
課題解決型学習（アクティブラーニング）や海外留学を導入し、主体的に学ぶ力や、思考力、実践力等を育む

各学校段階を通じて一貫した教育

中高一貫教育

大学等との連携・進学

復興学科等における一貫した価値観を共有した人材育成

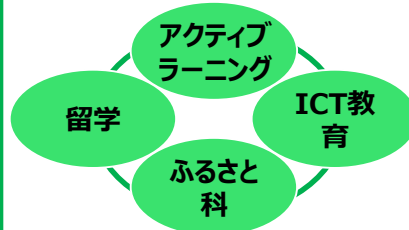
人材育成のビジョンを共有したうえで、双葉郡の教育に協力

※ 全国や海外の多様な分野の大学進学や、技術者としての就職など幅広い進路を想定

推薦枠や入試選考基準の転換

中高一貫校の設置

双葉郡内に進学先となる高校と、6か年を効果的に活用することを目的に、併設型中高一貫校を設置



社会教育施設

スポーツ施設

寮

避難している子供たちの受け皿となる幼稚園・小学校の整備

将来的には、多数の子供たちが区域外就学している地区や郡内の低線量地区に、受け皿となる幼稚園・小学校を設置する方向で検討

※ 既存の町立学校に配慮

学校と地域コミュニティの連携

学校を地域コミュニティの核と位置づけ、教育と地域復興の相乗効果を創出

企業・NPO等との連携

双葉郡の産業づくりとも関連した人的・財政的支援を実施

避難している子供たちや住民との絆づくり

区域外就学している子供たちへの連絡機能を強化するとともに、再会の集いなどの絆づくり・場づくりを定期的・継続的に実施

※ 子供たちが実践的な学びとして企画・実施

各町村立幼小中学校間の連携

各町村立学校間での相互受入れを検討。中高一貫校との連携

※ 双葉郡 8 町村・県・国・大学等による協議体で推進、福島県・国による支援

双葉郡子供未来会議 ～小泉政務官を交えて～

- 3月1日（日）に、福島大学において「双葉郡子供未来会議」を開催。
- 「被災12市町村の将来像を考える」のテーマの下、将来の担い手となる青年層（大学生）たちが4グループに分かれて議論した。
- 3月28日（土）には、双葉郡の中学校を卒業する3年生を対象に、「ふたば未来まちおこし大作戦」をテーマに開催する予定。



【A班】 ～「つながり」「持続と発展」「つながる」「情報」～

- 伝統の産業と新しい産業、子どもたちと地域の伝統・文化といった「つながり」を重視。
- 地域の伝統を更に発展させていくという「持続と発展」の視点が大切。
- 市町村同士、世代同士、地元の人々と新しく迎える人々などが「つながる」ことが重要。
- 確かな「情報」を伝える方法を確立し、キーワードを結び付けること。

【B班】 ～魅力を磨き続けるまち～

- 「今まであったまちのよさ」の再認識、「外からの視点でよさを掘り起こす」、「未来に付加価値を加える」といった視点から、町村ごとの特色を生かしたまちづくりを新たにスタートさせ、「魅力を磨き続けるまち」を目指すべき。

【C班】 ～共鳴・昔のまま新しく～

- まず、伝統、風景、産業、コミュニティなど、昔ながらのよさを大切にする。
- その上で、ロボット産業などの新しいもの取り込んでいく。
- これらが「共鳴」し合うよう、「昔のまま、新しく」をテーマにまちづくりを進める。

【D班】 ～世代のサイクル～

- 子ども、青年、高齢者という3世代から将来像を考えることが重要。
- 子どもを生み育てやすい環境と整えることと、最もエネルギー溢れる青年が情熱を持って活動できるようにする。
- 高齢者は伝統・文化を伝えることが生きがいになる。
- 自分たちで創っていきける12市町村になっていくことが大切。

ふたば未来学園高等学校のグランドデザイン

～ 大幅な定員増（120名から、応募者全員152名の募集定員へ）学校への期待大 ～



ふたば未来学園高等学校 グランドデザイン

総合学科高校

先進の学びで 地域から世界へ、そして未来へ
社会に貢献する人材の育成

主な進路と取得可能な資格等 ※ 以下の資格等を取得するための学習が出来ます。

- アカデミック系列：大学進学、TOEFL・TOEICなど
- トップアスリート系列：サッカー、バドミントン、ゴルフ、野球、レスリングの競技者・指導者、スポーツトレーナー
- スペシャリスト系列：測量士補、造園技師、危険物取扱者乙種第4類、簿記、情報処理、販売士、介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級）など

- ◆国際教育・防災教育・環境教育など多様な学び
- ◆各系列に縛られない柔軟な課題設定による課題解決型授業
- ◆スーパー・グローバル・ハイスクール (SGH) の指定を目指す

アカデミック系列
(大学進学を目指す系列)

トップアスリート系列
(トップアスリートを目指す系列)

スペシャリスト系列
(職業人を目指す系列)

バドミントン
サッカー
ゴルフ
野球
レスリング

文系
科目群

理系
科目群

スポーツ
科目群

工業
科目群

農業
科目群

商業
科目群

福祉
科目群

「総合的な学習の時間」

応用的学び

個人研究を行い
成果を発信する。

「課題研究」

「総合的な学習の時間」
「学校設定科目」

発展的学び

自分の課題を意識し
積極的に探究する

「課題研究」

「産業社会と人間」

基礎的学び

地域について
広く学習する

(ふるさと創造学)

主体的な学習
(アクティブラーニング)
(課題解決型授業)

「連携型」選抜

募集区分(連携型・1期共通)
A型(学業)
B型(スポーツ)
C型(生徒会活動・目的意識)

「1期」選抜

総合学習(ふるさと創造学)
双葉郡の中学校
(双葉郡出身の中学生)

**双葉郡以外の
県内外中学校**

3年次

(未来を考える)

2年次

(日本・世界に学ぶ)

1年次

(地域に学ぶ)

寄宿舎・食堂を完備



サポート

各界の第一人者
地域の方々

連携

大学・短大
環境創造センター
国際協力機構
等

海外留学・研修

ふたば未来学園高等学校の取組①

(ふたばの教育復興応援団の協力)



秋元 康 氏



安藤 忠雄 氏



伊藤 穰一 氏



乙武 洋匡 氏



小泉進次郎 氏



小宮山 宏 氏



佐々木 宏 氏



潮田 玲子 氏



為末 大 氏



西田 敏行 氏



橋本 五郎 氏



林 修 氏



平田オリザ 氏



宮田 亮平 氏



箭内 道彦 氏



山崎 直子 氏



和合 亮一 氏

「ふるさと創造学」など、年間100時間の授業
に御協力いただく
アクティブラーニングを支える取組の一つ

ふたば未来学園高等学校の取組②（中高連携の取組）

■ 双葉郡8町村の中学校との連携

- （１）ふたば未来学園高校「ふるさと創造学」公開授業
- （２）双葉地区中高交流会（「ふるさと創造学」学習発表１）
- （３）「ふるさと創造学サミット」（「ふるさと創造学」学習発表２）

■ その他の連携

- （１）全体としての連携
 - ・「ふるさと創造学」の取組の紹介・報告を含めた広報紙の定期発行
 - ・ＩＣＴ活用による中高生徒及び教員の交流
 - ・教員による研修会
- （２）個別の連携
 - ・英語教員・ＡＬＴの中高交流
 - ・運動部の合同練習会、技術講習会

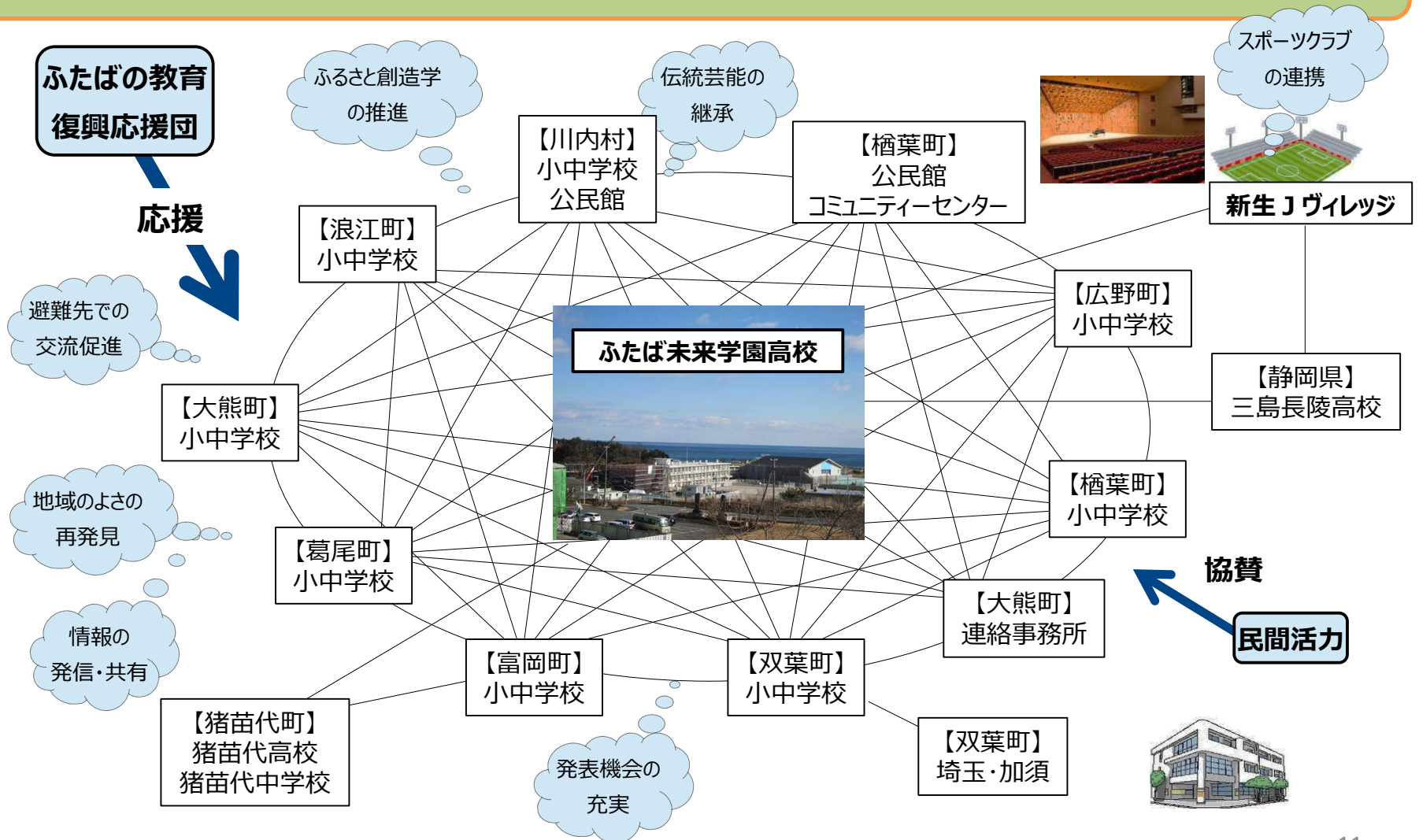
※ 福島県教育委員会と双葉郡教育復興ビジョン推進協議会が協力して実施



併設中学校の設立に向けた検討を進めている。

ふたば未来学園高校を核とした教育コミュニティ・ネットワーク構想

- ◆ 双葉郡 8 町村の教育施設（学校、公民館等）を I C T によりネットワーク化を図り、8 町村相互の情報を共有化
 - ・ テレビ会議システム等を活用し、地域のコミュニティ形成を支援
 - ・ 「ふたばの教育復興応援団」による講演・遠隔授業など



小高新統合高等学校の特色

地元産業界が求める人材の育成（平成29年4月を目途に小高新統合高校の設置）

-機械科 1 クラスの増設・○○○

地域の
要望に応える
取組

-産業革新科 2 クラスの新設（工業化学科・情報ビジネス科の改編）

イノベーション・
コースト構想に
貢献できる
人材の育成

機械科
(1 クラス)

機械科
(1 クラス)

電気科
(1 クラス)

産業革新科
(2 クラス)

流通
ビジネス科
(1 クラス)

環境
化学
コース
(工業)

電子
制御
コース
(工業)

ICT
コース
(工業)
+
(商業)

経済
金融
コース
(商業)

地域連携教育 防災教育 リスク管理教育 先端技術教育

相双地方とともにある学校づくり、小高ならではの教育

将来にわたって活躍できる実力を身に付ける専門教育を行う

小・中学校における震災後の取組

郷土に対する誇りを抱き安心して生き抜く力の育成

道徳教育

- ふくしま道徳教育資料集全3集の活用と全国への発信
- 保護者向けリーフレット「道徳のかけ橋」の発行



放射線教育

- 「放射線等に関する指導資料」の作成、活用
- 「導入用DVD教材」の活用



防災教育

- 「防災教育指導資料」の作成・活用
- 防災個人カードの配付・活用



新たな産業創出とグローバル人材の育成

理数教育

- 「小学生算数、理科講座」の実施
～アクティブな活動、実験コーナーの体験等～



- 「算数・数学ジュニアオリンピック」の開催
～金メダリストは、国内トップレベルの大学で講義体験等～

外国語・国際理解教育

- インターネットを活用したライブ授業
- パソコン教材の活用
- アセスメント受検に挑戦！



震災加配教員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置

- 被災地を始め、県内児童生徒へのきめ細かな支援

ふくしまっ子自然体験・交流活動

- 心を育て、福島を元気を発信！

学校給食における放射性物質検査

- より安全で安心な学校給食の提供

児童生徒への学習支援や心のケア、食の安全確保

小・中学校における新たな取組

放射線教育・防災教育

自ら考え、判断し、行動できる力の育成
先端科学、先端医療等に従事できる人材の育成

◇ふくしま発の授業等の推進

- 環境創造センター等の活用による体験学習
- 理数教育の充実
- 人権教育も踏まえた
道徳教育の充実



ICT教育

情報通信技術を活用し、国内や世界に向けて
自ら考え、判断し、情報発信できる力の育成

- テレビ会議システムによる授業や交流活動
- 個別にタブレット端末等を
活用する授業



ふるさとへの 誇りと愛着

図書館教育

学力の向上と豊かな心の育成

「“チャレンジ！
読書王国 ふくしま”」

- 学校司書を活用した
読書活動の充実



外国語・国際理解教育

グローバル化に対応した
コミュニケーション能力の育成

海外とつなぐライブ授業

国内研修施設での語学研修

海外派遣研修



本県ならではの魅力ある教育活動を展開し、子どもたちに
復興へのバトンを渡し、将来につないでいく！

復興に寄与したいという子どもたちの思いを後押しする新たな取組

～「子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業」～

「自分たちも復興に寄与したい」
という子どもたちの思い



体験を通して
子どもたちに育まれるもの

- ・豊かな心
- ・郷土愛
- ・地域への誇り
- ・社会性
- ・企画力、創造力
- ・実行力
- ・困難を乗り越える力
など

子どもたちが自ら考え、判断し、行動を起こす
社会体験活動の場を設定

【子どもたちの活動プロセス】

- 1 計画を立てる
- 2 準備をする
- 3 実行する
- 4 振り返る
- 5 改善し、次につなげる
- 6 発表し、地域へ広げる

【活動を補助する団体】

- ◆ 市町村
- ◆ P T A 組織
- ◆ 子ども会
- ◆ N P O など

【テーマ1】避難者へ元気を！（主に小学生）

- ・子どもたちが仮設住宅などを継続的に訪問し、避難者と交流してお年寄りなどを元気にする活動

【テーマ2】一人一人が復興大使！（主に中学生）

- ・水俣市など風評被害を経験した地域との交流を行い、地域の復興を考えるとともに、他県へ復興をアピールする活動

【テーマ3】起業体験、福島を発信！（主に高校生）

- ・自分たちの専門性を生かして何ができるかを考え、実践することで「ふくしまの魅力」を発信する活動
(例) 特産物の商品化と販売、遠隔操作ロボットの開発など

体力向上を図る新たな取組

～「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」～

6つのプロジェクトを一体的に実施

- ◆生涯にわたって運動に親しもうとする子ども
- ◆運動と健康の関係、食の重要性に気づき、進んで健康な生活を送ろうとする子ども

1 本県独自の「運動身体づくりプログラム」の活用

・本県独自に開発したプログラム（改訂版）を活用し、
「動きたい体」「動ける体」づくりを推進



4 体育授業への専門アドバイザー派遣（小学校）

・小学校体育の授業に外部指導者を専門アドバイザーを派遣し、運動の楽しさや魅力をなどを実感

2 児童生徒の12年間にわたる継続調査の実施

・小1～高3の全児童生徒を対象に「体力・運動能力調査」と「食習慣調査」を継続して実施

5 運動部活動への外部指導者派遣（中・高校）

・中・高等学校の運動部活動に専門的な指導を行うための人材を派遣し、活動を充実

3 各種調査結果を一元管理する「自分手帳」

・健康診断結果と運動や食習慣に関する各種調査調査結果を「自分手帳」に記録し、健康・体力増進に活用



6 健康な身体をつくるための食育の推進

・「自分手帳」の活用や外部講師による健康相談の実施などにより、家庭・地域と連携した望ましい食習慣を形成

原発事故に伴う
屋外活動制限

【深刻な健康課題】

- 体力の低下傾向に歯止めがかからない現状
（体力調査：全ての対象で全国平均を下回る）
- 運動に関する関心や意欲が希薄
- 肥満傾向児の出現率増加
（保健統計：全年齢で全国の出現率を上回る）
- 生活環境の変化に伴う食習慣の乱れ

将来にわたる健康リスクの 増大が懸念！

避難生活の
長期化



双葉郡県立学校の今後の取組

◎ 休校となる双葉郡の県立高校5校の学校再開に向けた取組

- 下表の5校は、平成27年度より生徒募集が停止され、平成29年度から休校となる。
- 今後、学校が所在する町の復興状況、交通機関の復旧状況、インフラの整備等を勘案しながら、学校が再開できるよう検討を進めていく。

校名(福島県立)	
双葉高校	
浪江高校	
浪江高校津島校	
富岡高校	
双葉翔陽高校	

◎ 富岡養護学校の学校再開に向けた取組

- サテライト校（県立高校）同様に、富岡町の復興状況等を勘案しながら、聾学校平分校（いわき市）敷地内仮設校舎から富岡町への帰還と、学校再開について検討を進めていく。

ふたば未来学園高校に入学する生徒の言葉

○東日本大震災は、あなたにどのような影響を与えましたか。

東日本大震災は、私にとって改めて故郷のことを見つめるきっかけになりました。震災に伴う原発事故により、広野町を離れて生活しているときに、広野町の将来をずっと考えていたからです。震災が起こるまでは、あたりまえに過ごしていた日々も貴重なものだったと再認識しました。

しかし、私はこの出来事をあまり悲観的にとらえていません。むしろ東北や故郷である双葉郡の魅力を伝えるチャンスだと思っています。震災前、私は福島がもっと全国的に有名になってほしいと思っていました。非常に不名誉な形で多くの人に知られるようになりましたが、起こってしまったことは仕方がないと思っています。むしろこの状況を逆手にとり、震災前より活気あふれる双葉郡にしたいです。

広野町立広野中学校

三年

日下

雄太

(くさか ゆうた)